



2004年全国翻訳専攻資格検定試験

通訳実務(日本語・3級)録音資料

ただ今から、《2004年度全国翻訳専攻資格検定試験》日本語3級・通訳実務の試験を開始します。

一、次の日本語の文章を中国語に訳しなさい。(50点)

次の日本語の文章を聞いてください。文章は一文ずつ読み上げますが、一度しか読みません。録音を聞きながら必要なところをメモしてください。ピーッという音がしたら、マイクに向かって聞いた内容を中国語に訳してください。ピーッという音がもう一度したら、次の文の録音を流しますので、直ちに通訳を終了してください。

では、試験を始めます。

文章1

2003年11月17日、160年前のこの日、上海港が正式に開港しました。

開港160周年を記念して、上海の各新聞が記念別刷りを出しました。

そのなかでも特に関心を引いたのが、『申江服務導報』にあった、道路の名前にまつわる物語です。

南京路は「大馬路」あるいは「十里洋場」とも呼ばれ、上海最初の商店街となったところです。

20世紀に入ると、たくさんの著名なデパートがこの一帯で次々にオープンしています。

大馬路に並行する形で走る道はそれぞれ、二馬路、三馬路、四馬路と呼ばれていました。

「夢のスマロの街の灯…」というディック・ミネの歌詞は聴いたことはありますが、うかつなことにその四馬路がどこにあるか気にしたことはなかったのです。

ご存知でしょうが、四馬路とは今の福州路だったのですね。



で、南京路から数えて二番目の九江路が二馬路、三番目の漢口路が三馬路なのでした。

二馬路は南京路ほど有名ではありませんでしたが、上海最初の証券取引所ができたのはここですし、にぎやかな歓楽街でもありました。

今も上海ガニで有名な老舗が数多く立ち並んでいます。

三馬路では、近代中国でもっとも歴史の長い新聞『申報』の社屋や、京劇の劇場「大劇場」などが連なっていたのですが、今は部品の卸し店などが立ち並んでいます。

そして、南京路に次ぐにぎやかなストリートだった四馬路です。

かつては文化人が集まった四馬路はいまも、上海最大の書店「上海書城」や文房具店などが並ぶ文化街として健在です。

上海の街は刻々と変貌しています。

変化を目に留めるとき、百年前の上海にも思いを馳せてみれば、また別の上海の物語が見えて来そうです。

文章2

天津の経済成長が始まったのは、1992年の鄧小平の「南巡講話」以降のことです。

長い停滞で溜まったエネルギーを一挙に噴き出すように、天津の経済成長が始まりました。

2002年末、天津のGDPは2051億元に達しました。

1993年のGDPは536億元だったから、10年間でほぼ四倍増を達成したことになります。

この10年間の経済成長は、全国平均を大きく上回りました。

導入された外資は、累計で73億ドル以上でした。

これを利用して1220の国有企業の技術改造プロジェクトが実施されました。

天津経済技術開発区では、モーターローラやコカコーラ、大塚製薬など世界の



著名な大手企業が続々と投資を始めました。

トヨタは2000年から天津に進出し、中国の第一自動車と合弁で乗用車「VIOS(ビオス)」を売り出しました。

従業員約2000人は現地採用で、平均年齢は21歳です。

さらにトヨタは開発区に、総面積155万平方メートルの第二工場の建設を始め、2005年から「CROWN(クラウン)」を生産することになっています。

天津新港に隣接し、高速道路が2本も走っている開発区の立地条件は優れています。

背後に広がる広大な華北、西北、東北への窓口の役割を果たし、天津市のすぐれた労働力をふんだんに利用することができます。

外国との交流の長い歴史で培われた国際性も天津の強みです。

開発区の今後の発展にとって、最大の問題は「水」です。

現在、実験的に日産10000トンの海水を淡水化していますが、コストが高いのが悩みです。

しかし開発区のある責任者の話によると、「将来は、北京、天津の上水道と同じぐらいの価格に引き下げる自信がある」と強気の見通しです。

二、次の中国語の文章を日本語に訳しなさい。(50点)

次の中国語の文章を聞いてください。文章は一文ずつ読み上げますが、一度しか読みません。録音を聞きながら必要なところをメモしてください。ピーッという音がしたら、マイクに向かって聞いた内容を日本語に訳してください。ピーッという音がもう一度したら、次の文の録音を流しますので、直ちに通訳を終了してください。

では、試験を始めます。

文章3

西安高新区管理委员会鉴于软件业强劲的发展势头,1998年创建了西安软件园,具体负责区内软件产业的开发管理和服务。

该园规划占地9平方公里,目前已建成面积16万平米。



这里将建成产业区、软件教育培训区与劳务输出基地、商贸区和生活休闲区融合的软件科技园区。

西安软件园为投资者和合作者营造了一个良好的创业、投资和生活环境。

这里以中国一流的基础配套设施为入住企业提供发展平台。

具备宽带网络接入和数字通信设施、不间断的电力供应、全天候的网上结算和报关、极为方便的交通和出入境条件。

软件园遵循市场法则，采取与国际接轨的体制，对入住企业实行积极的扶持和多方面的优惠政策。

2001年西安软件园被政府认定为“国家软件产业基地”，在全国的软件园中名列前茅。

这是因为：一、西安虽然是一个内陆城市，却不影响它的软件产业竞争力，因为软件也是一种可以通过网络传递产品和信息的产业。

二、软件也是一种知识密集型产业，正适合像西安这样的人才和技术密集城市。

三、西安的生产成本比较低。

2003年、美国麦肯锡咨询公司一份咨询报告结论认为，西安软件产业是西安市、西安高新区最有机会发展的战略性产业。

西安软件园与日本方面的合作前景光明。

也许有东方文化的背景，西安方面比较看重日本的技术和管理科学，这是个重要因素。

从富士通和NEC落户该园的实践看，日本企业在西安高新区已有良好的合作记录，贸易已形成规模。

眼下日本经济开始复苏，而中国软件市场方兴未艾，有巨大发展潜力，正是强势公司挺进中国的好时机。

文章4

唐山位于中国河北省的东部，东邻渤海湾，是中国环渤海经济圈中重要的一座城市，与北京、天津构成经济发展的“金三角”。

从北京或天津出发，只需2个多小时的车程便能到达唐山，而坐落在城市东



部的京唐港，如今已经具备了1500吨的吞吐能力，成为唐山的出海口。

唐山的陶瓷业具有悠久的传统，素有“中国北方瓷都”之称。唐山还是中国北方著名的工业城市。

中国最早的现代化煤矿便坐落在这里，另外，唐山的机车车辆厂以及现代化的水泥厂也颇有名气。

优越的地理位置和便捷的交通为唐山的发展打下基础，而位于唐山市北部的高新技术开发区如今已经成为唐山经济发展的龙头。

外国企业对唐山高新区高效的办事风格及细致周到的服务给予一致好评。

一家日本公司建厂时，由于用电量非常大，需要重新接一条电缆。

为了让公司能够早日完工开始生产，高新区管委会主动承担了全部工程，并且还免收了工程外接线所需的费用。

2003年非典期间，日本某大公司由于无法派人来华，便委托唐山高新区管委会为他们做市场调研，一连电传了780个问题。

为了更好地帮助该公司在中国开展业务，高新区特地从北京请来中国金属专家一起做市场调查。

结果，高新区做出的答复让日本公司非常满意。

非典一过，日方立刻派出了考察团来到唐山。

优越的资源条件加之管理干部们的务实精神，给日方考察人员留下了很好的印象。

随着日本企业纷纷在中国投资，许多在唐山工作的日本人员对唐山产生了深厚的感情。

小林诚先生从最初寻找中国合作伙伴，到在中国投资建厂，亲身经历了公司的发展全过程。

他从总经理的岗位上退休以后，依然对唐山怀有深情。唐山市特聘他为唐山驻日本事务所的所长，并授予他唐山荣誉市民的称号。

像小林诚这样的日本人在唐山不在少数。